

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第41週 2024年10月7日（月）～2024年10月13日（日）2024年10月17日作成

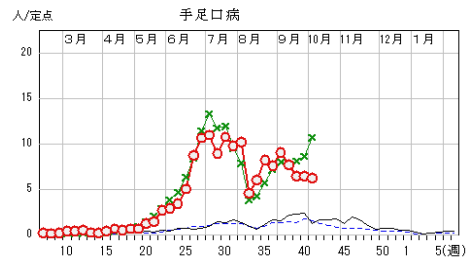
☆定点[※]報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）手足口病

第41週の報告数は275人で、前週より10人少なく、定点当たりの報告数は6.25であった。

年齢別では、2歳（55人）、1歳（52人）、3歳（41人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（9.33）、佐世保市保健所（8.33）、対馬保健所（8.00）であった。

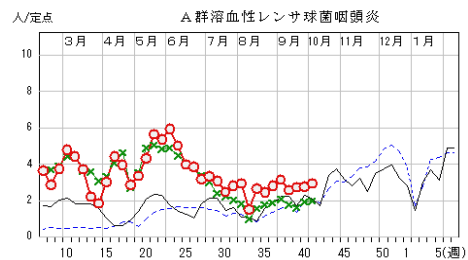


（2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第41週の報告数は130人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は2.95であった。

年齢別では、10～14歳（28人）、7歳（14人）、8歳（14人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（13.00）、県南保健所（9.80）であった。

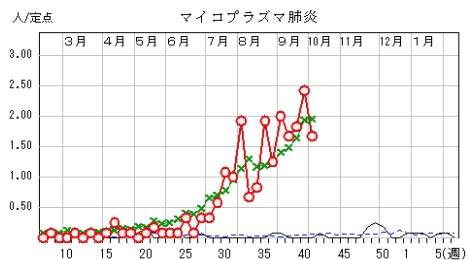


（3）マイコプラズマ肺炎

第41週の報告数は20人で、前週より9人少なく、定点当たりの報告数は1.67であった。

年齢別では、0～4歳（9人）、5～9歳（6人）、10～14歳（4人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、長崎市保健所（4.33）、壱岐保健所（3.00）、県央保健所（3.00）であった。



○—○ 当年(長崎県) — 前年(長崎県)
×—× 当年(全国) - - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位3疾患の概要

【手足口病】

第41週の報告数は275人で、前週より10人少なく、定点当たり報告数は6.25でした。6月中旬より17週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別にみると、五島地区、壱岐地区をのぞく地区で警報レベルとなりました。

本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第41週の報告数は130人で、前週より8人多く、定点当たりの報告数は2.95でした。地区別にみると対馬地区（13.00）、県南地区（9.80）は、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【マイコプラズマ肺炎】

第41週の報告数は20人で、定点当たり報告数は1.67となり、前週より減少しました。地区別では、長崎地区（4.33）、県央地区（3.00）、壱岐地区（3.00）が多くなっています。

本疾患は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛沫感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

★トピックス：県内がインフルエンザの流行期に入りました

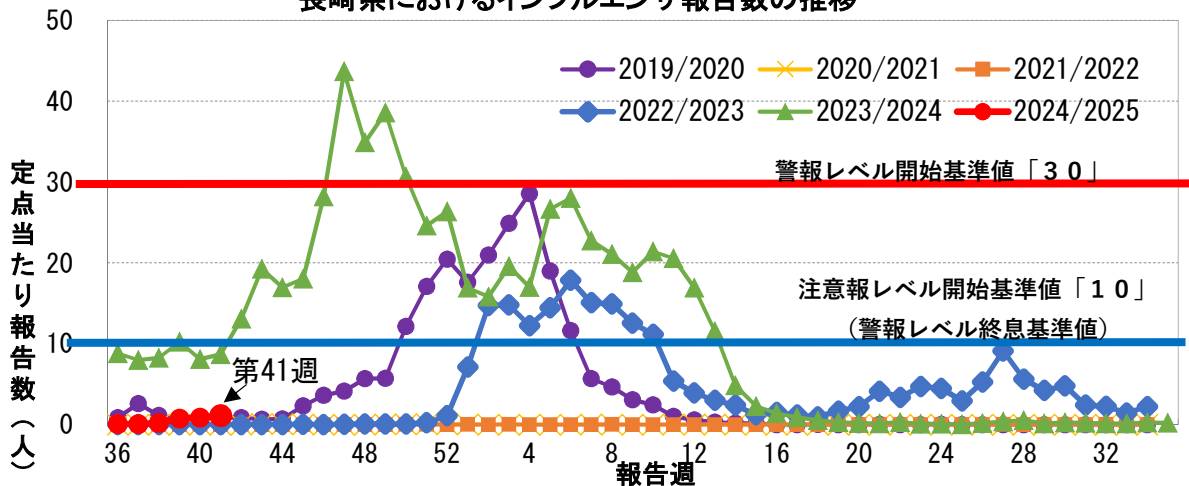
令和6年第41週の長崎県全体のインフルエンザの定点当たり報告数が「1.10」となり、流行開始の目安となる「1.00」を上回りました。地区別にみると、長崎地区（2.76）、佐世保地区（1.18）は他の地区より多く、「1.00」を超えています。

インフルエンザの流行期に入り、今後患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、流行に備えて、ワクチンを接種しましょう。

（参考）長崎県感染症情報センター 「インフルエンザ」

<https://www.pref.nagasaki.jp/bunrui/hukushi-hoken/kansensho/kansen-c/influenza-kansen-c/685285.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



★トピックス：日本脳炎注意報が発表されました

本県では日本脳炎の流行予測を目的として、毎年6月から9月の間に日本脳炎ウイルスの主な増幅動物であるブタのウイルスへの感染状況を各回10頭ずつ8回（計80頭）調査しています。9月4日（7回目）に調査した10頭のブタから日本脳炎ウイルスに対して最近感染したことを示す抗体が検出された結果を受けて、10月10日に県地域保健推進課より注意喚起の情報が発表されました。

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症です。人はこのウイルスをもっている蚊に刺されることによって感染します。潜伏期間は5日から15日で、ほとんどの場合は無症状で終わりますが、発症すると数日間の高熱・頭痛・嘔吐・めまいがみられ、重症化すると意識障害・けいれん・昏睡などの症状とともに、死亡に至ることもあります。

肌寒くなってきましたが、まだ蚊の活動時期にあり、注意が必要です。予防には日本脳炎ワクチンの接種が最も有効です。また虫除けスプレー等の利用や長袖などを着用する等、媒介する蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されないような対策を取りましょう。

（参考）長崎県地域保健推進課：日本脳炎注意報の発表

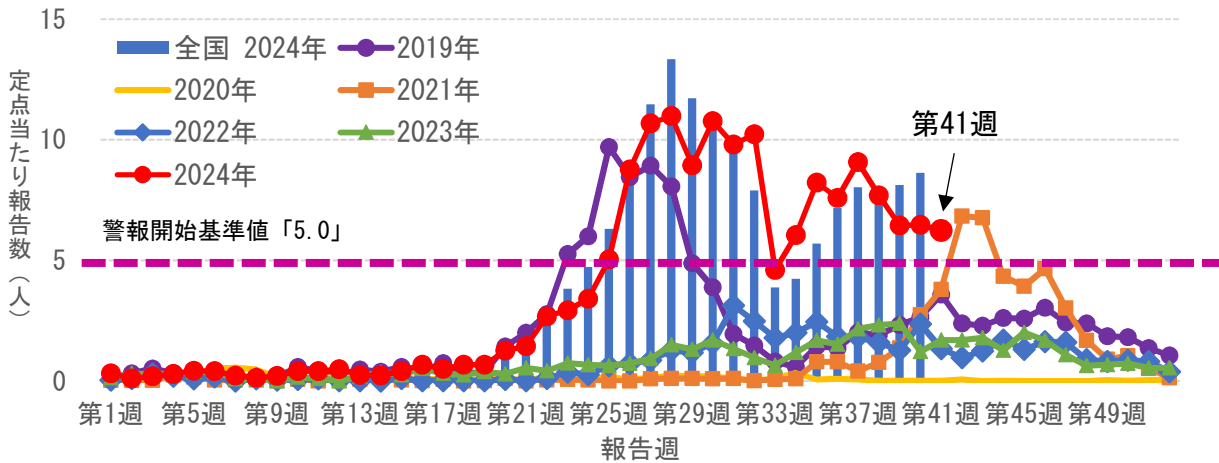
<https://www.pref.nagasaki.jp/press-contents/686974/index.html>

☆トピックス：手足口病が流行しています

手足口病は、四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

長崎県の第41週の定点当たり報告数は「6.25」で、警報レベルの報告数が17週間継続しています。地区別でも、10保健所のうち、五島、壱岐を除く8保健所で警報レベルの報告数となっています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。

長崎県における手足口病報告数の推移



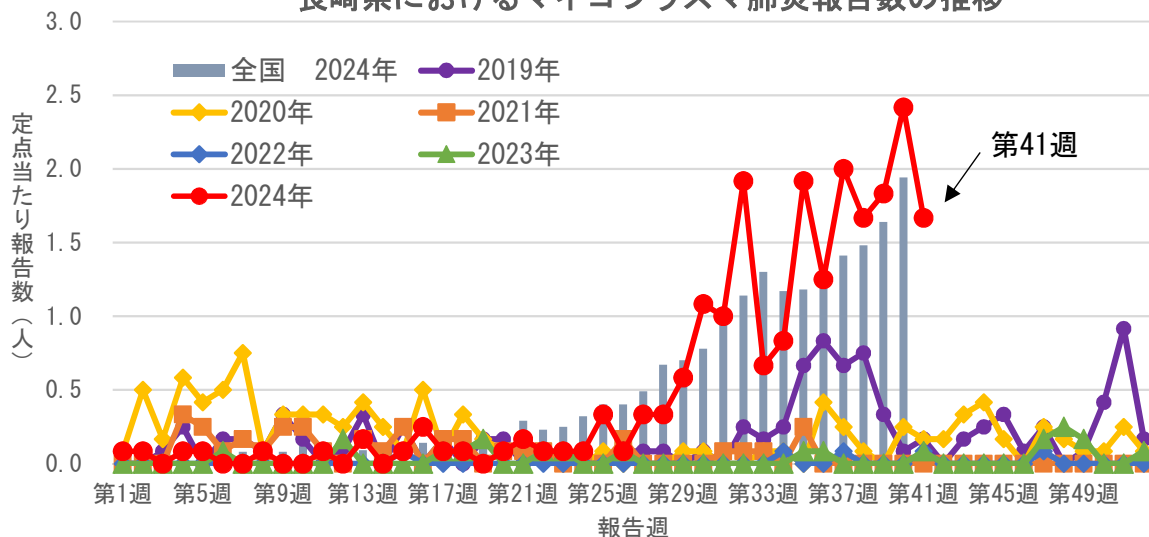
☆トピックス：マイコプラズマ肺炎の報告数が増加しています

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマという細菌による感染症です。全年齢で1年を通して報告があります。感染経路は、患者の咳やくしゃみを介した飛まつ感染や病原体が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。2～3週間の潜伏期間の後、発熱、全身倦怠感、頭痛、咳などが見られます。咳は、解熱後も3～4週間続くことがあります。まれに重症化することや、無菌性髄膜炎、脳炎などの合併症がみられることもあります。

2024年第41週の定点当たり報告数は、「1.67」で、前週より減少しました。2024年は7月中旬から報告数が増加し、前週（第40週）には、現行の調査方法となった平成11年以降最多の定点当たり報告数（2.42）となりました。地区別では、長崎地区（4.33）、県央地区（3.00）、壱岐地区（3.00）、上五島地区（1.00）から報告が上がっています。年代別では、10歳未満が最も多くなっています。

予防には、手洗いやうがいを徹底することが大切です。咳が続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。

長崎県におけるマイコプラズマ肺炎報告数の推移



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 無症状病原体保有者 男性（70代・1名） 女性（60代・1名）

3類感染症：報告なし

4類感染症：報告なし

5類感染症(全数把握対象)：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（70代・1名）

梅毒 患者 男性（40代・1名） 女性（20代・1名）
無症状病原体保有者 男性（40代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第36~41週、9/2~10/13)

疾患名	定点当たり患者数					
	36週	37週	38週	39週	40週	41週
	9/2~	9/9~	9/16~	9/23~	9/30~	10/7~
インフルエンザ	0.06	0.06	0.19	0.76	0.86	1.10
新型コロナウイルス感染症	4.69	3.23	2.37	1.74	1.81	1.29
RSウイルス感染症	0.68	0.36	0.23	0.05	0.16	0.16
咽頭結膜熱	0.25	0.27	0.36	0.07	0.18	0.20
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.80	3.16	2.57	2.73	2.77	2.95
感染性胃腸炎	1.14	1.20	1.68	0.84	1.48	1.50
水痘	0.02	0.05	0.02	0.09	0.18	0.09
手足口病	7.59	9.07	7.70	6.45	6.48	6.25
伝染性紅斑（リンゴ病）				0.02	0.05	0.07
突発性発しん	0.41	0.32	0.20	0.30	0.25	0.27
ヘルパンギーナ	0.52	0.57	0.50	0.36	0.45	0.48
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02		0.07	0.11	0.02	
急性出血性結膜炎	0.38	0.13				0.13
流行性角結膜炎	0.50	0.75	0.50	0.38	0.25	0.75
細菌性髄膜炎						
無菌性髄膜炎	0.25	0.17		0.17	0.08	
マイコプラズマ肺炎	1.25	2.00	1.67	1.83	2.42	1.67
クラミジア肺炎（わん病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						0.25

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第41週、10/7~10/13) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.10	1.18	2.76		0.17	0.64	0.75	0.50		0.33	
新型コロナウイルス感染症	1.29	1.73	1.06		2.17	1.45	0.75	2.00	0.50	1.00	1.67
RSウイルス感染症	0.16	0.17	0.20		0.50	0.14	0.20				
咽頭結膜熱	0.20		0.30		0.25	0.71					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.95	1.50	1.20		1.25	3.00	9.80	1.67		1.50	13.00
感染性胃腸炎	1.50	3.00	1.70		1.00	3.29	0.40	0.67			
水痘	0.09		0.30		0.25						
手足口病	6.25	8.33	5.50	4.00	3.00	7.71	7.60	9.33	2.00	4.00	8.00
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.07	0.17	0.10			0.14					
突発性発しん	0.27	0.33			0.75	0.14		2.00			
ヘルパンギーナ	0.48	0.17	0.20			0.71		4.00	0.33		
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）											
急性出血性結膜炎	0.13						1.00				
流行性角結膜炎	0.75	1.00	0.33				4.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	1.67		4.33	3.00		3.00				1.00	
クラミジア肺炎（わん病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.25					3.00					